

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270400967		
法人名	有限会社 楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム宇賀の杜楽舎(東ユニット)		
所在地	出雲市宇賀町23-1		
自己評価作成日	令和2年9月24日	評価結果市町村受理日	令和3年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念である、①入居者の方と生活を共にし、暮らしを支え命を護る。②一瞬の笑顔を求めて…。を体現しながら、支援を行っています。今年度は、新型コロナウイルスの影響により、外出や地域交流、社会参加に制限があり、外へ向かっての活動は難しいですが、支援目標の「利用者様の誕生日に、希望メニューを皆で作ってお祝いしよう」を実践しながら、美味しい物をたくさん食べて、笑顔で賑やかに生活しています。しゃべって、笑って、時には怒って…。入居者の皆様、お元気です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「西ユニット」に記載しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの研修にて説明したり、楽舎の理念の成り立ちを研修で話したり、毎日唱和し、スタッフは理念の共有が出来ている。毎月の理念もスタッフで考え、実践している。	「西ユニット」に記載しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サロンへ出掛ける予定になっていたが、コロナウイルスの為、毎年の交流が今年は出来ないが、地域の銀行へ入居者様の作品を掲示したり、コミセン便りを届けてもらったり、お花のボランティアさんは続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は、福祉フェスティバルもなくなり、又コロナの為に地域に向けての発信の場がないが楽舎新聞を送付したり、玄関に見える位置へ掲示し、面会の方へ楽舎での支援を見てもらおうようにしている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの為、運営推進会議は御家族様は不参加でありできていないが、アンケートを活用したり、コロナ対策について意見交換している。10月からは楽舎にて再開しようとしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で、現状報告し、意見交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、全スタッフは正しく理解し、ケアをしている。研修したり、安全面からどうしても必要な場合、3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会で検討し、出来る限り、拘束をしない取り組みをしている。10月には疑似体験研修をする(食事介助)		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、研修を行い、学んでいる。日頃から、スタッフ同志声に出し、虐待防止に努めている。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で、学ぶ機会を持つようになっている。利用者様が自立した生活が送れる様、医師、ケアマネージャー看護師、ご家族と日々話し合い、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み～入所する際、丁寧に説明し、不安な事、困っている事などを聞くよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、スタッフから声をかけるようにし、意見や要望をお聞きしている。ケアプランなどに反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員とは、常に意見交換が出来る、雰囲気が出てきている。風通し良い職場作りを心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休を各自きちんと取り、リフレッシュしている。3年に1回人事評価あり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナにより外部研修の機会は減ったが、毎月内部研修にて、しっかりと勉強できている。メディアなどからの情報あれば、すぐ伝達し、日々のケアに取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が介護人材確保定借プロジェクトに参加しており、数か月に1回、他事業所や医療関係者などと交流し、サービスの質向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、アセスメントを行い、ご本人様、御家族様より、困っている事、要望をお聞きし、前ケアマネージャー、退院カンファレンスに参加し、お話をきき、支援につなげる様務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時前から困っている事、不安な事など相談にのっている。ご家族様と話し合い納得される支援で、安心してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様から情報を聞き、前ケアマネージャー、かかりつけ医と連携を取り、支援方法を納得頂いた上で、楽舎でのサービスを利用してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コロナの為、家事支援を中止しているが、出来る事はスタッフと一緒にしている。又裁縫などやりやすい方法を入居者様から教えてもらう事がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月の手紙で、日頃の様子をお知らせしている。コロナで御家族様がご本人様と直接面会が出来ない為、絵葉書等を書き、送って返信をもらう事で御家族様とご本人様の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前生活されていた、お部屋の場所に近い環境作りに心がけている。コロナの為面会が出来ない為、電話、手紙で途切れない様支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、孤立しない様スタッフが間に入っている。お話を聞いて座席の位置や環境の整備をしている。共同生活の場で支え合うような支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、行事にお誘いしたり、ご本人様に会いに行ったりと絆を大切にしている。又、御家族様より、相談があった場合などは、誠意を持って対応させて頂いている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、御家族様に面会時等に会話を通して希望、意向を伺っている。困難な場合は二者選択方式、表情などからくみ取り、暮らしの希望以降に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前自宅(他の事業所)等に訪問し、情報収集、経過の把握に努めている。入所時に私の暮らしシート等により過去歴を情報収集し、新たな事は赤ペンで記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	楽舎独自の一日心身アセスメント表を活用し、申し送り時等にスタッフ間にて状態等を共有し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会、毎月のお手紙等により、入居者様の現状を伝えたり、希望を聞いたりしている。理念に元ずいて計画作成者がプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランが毎日の記録と連携させてある。毎日、3ヶ月、6ヶ月のモニタリング実施。変化あれば検討会議録を活用し、スタッフ間で情報共有し、話し合いながらケアプラン見直し等に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医往診又、急な受診等、本人に付き添い、情報提供し、本人の状況・要望に応じ柔軟に対応している。24時間で看護師とオンコールにて繋がっている。又、薬局とも居宅薬剤管理を取り入れており、薬剤師さんにもアドバイス等を受けて、支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍で交流が出来ないが、公民館、保育園、小中学校との交流を設けている。銀行へ作品を展示し、作成にあたって、1人1人が目標をもち、やりがい、楽しみを持ち能力を発揮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続して頂き、24時間医師へ連絡体制もとれている。1ヶ月に2回往診がある。基本御家族様で対応して頂いているが、困難な方はヘルパーを利用して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に心身アセスメント表を必ず確認してもらい、バイタルの異常があれば看護師やかかりつけ医へ繋ぎ、指示をあおぎながら支援と看護にあたっている。24時間看護師オンコール対応。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院にあたり、カンファレンスを行い、今後の支援について決めている。入院中スタッフが面会に行き、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にもしっかり終末期の説明(楽舎の方針)をしている。状態が変化する事を説明している。御本人様、御家族様の意向を尊重し、かかりつけ医とも連携を取りながら、安心して頂ける体制作りと支援の実践を心がけている。特変時には必ずご連絡をさしあげている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを設け、全入居者様のカルテに119シートを加えて、バイタル異常値、病歴を日頃から確認している。又救急対応の研修にてAED使用法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災消防訓練は年2回実施している。夜間想定や水害時を想定した訓練も行っている。避難アセスメントにより、全スタッフが早く誘導出来るように訓練している。ネームプレートを用いて、地域の方にもすぐ分かる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の病気を理解し、入居者様のプライドを傷つけない様心がけている。排泄や入浴は羞恥心を与えない様、配慮して他者の前での大声での会話は控えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中で御本人の思いや、意志、潜在能力を引き出し、支援につなげている。入居者様自ら、声を上げやすい雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴、価値観を尊重し、個々に合った生活スタイルが送れるよう、努めているが、時々職員都合を優先する事もあった。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週2回の入浴、毎日の清拭、顔そり、定期的散髪、清潔な衣服の着用と清潔保持に努めている。お化粧の希望があればして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ムセや誤嚥が無いよう、食事をとる姿勢に配慮し口腔体操を行っている。盛り付けや食材(熱を通せる食材)切り等個々に応じた、役割を持って頂いている。バースデイにはご本人様の希望のメニューを提供している。季節に応じた食材や料理作りを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増加にならない様、月初めに体重測定を行っている。1日の水分量を記録し、脱水予防や食べ残しの内容や量等確認し、低栄養に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防、口臭防止の為にスタッフが必要に応じた、磨きなおしを行い、残渣物が残らない様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導に加え、1人1人の排泄の特徴を職員で把握し、声掛け、誘導し支援を行っている。人形シート(アセスメントを活用)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンや健康状態に応じて、医師や看護師に相談の上、牛乳を飲んで頂いたり、看護師に座薬や浣腸の対応してもらい、排便コントロールに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1対1の対応をしている。個々の好みや生活習慣に合わせて入浴して頂く他、足湯を使用したり、行事の際は入浴剤を使用するなど喜んで頂ける様、支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境や寝具・服装を臨機応変に整え、気持ちよく休んで頂ける様、支援している。夜間よく眠れるよう、日中はしっかり活動して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を把握し、変更があれば職員同士で情報を共有し、変化があったかどうかの確認に努めている。週1回薬局さんからの説明もあり。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意な事や、やりがいを把握し、洗濯たたみを役割としてされている方もいる。コロナの中でも恒例となっている第7回楽舎大運動会を開催したり、一人一人の能力に合った競技や力を合わせてするボール送りなど、楽しみとなる支援をしている。毎月の作品作りも、テーマを持って皆で協力して、作る達成感を感じて頂けるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ対策により、外出がなかなかできない状況にはあるが、対策をしっかりと行った上で気分転換になるようなドライブなど、これから行く予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はコロナの為、外出が難しい状況であるが、以前には企画を立てて、外出、買い物を行事として行い、支援をしていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればしてもらっている。コロナの為、面会に規制をかけており御家族様との絆を大切にす為、ハガキ、手紙支援を行っている。御家族様からも返事が届き、喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段はカーテンを開けて、日光を入れているが、時期により日差しが強い時など、その時間の間だけカーテンを閉めたり配慮している。ホールには、季節に合わせて壁飾りをしたり、季節のお花も飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方、話しの合う方が気軽に話しが出来るよう配席されている。ソファーやタタミ、廊下のベンチなど思い思いの場所で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様の症状や状態とも合わせて、居室の環境を整えられている。自分の作品や写真を飾ったりされている。御本人様のタンスなど持ち込んでおられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人出来る事、分かる事をスタッフが把握して、出来る所は利用者様にして頂き介助を行っている。目線の位置に張り紙をしたり、目印に赤テープを貼ったりして、分かりやすい配慮、動線に物を置かないよう、安全に配慮、自分で車椅子へ安全に移れるよう、フットレスをはずして、ベットサイドにセットするなど工夫している。		